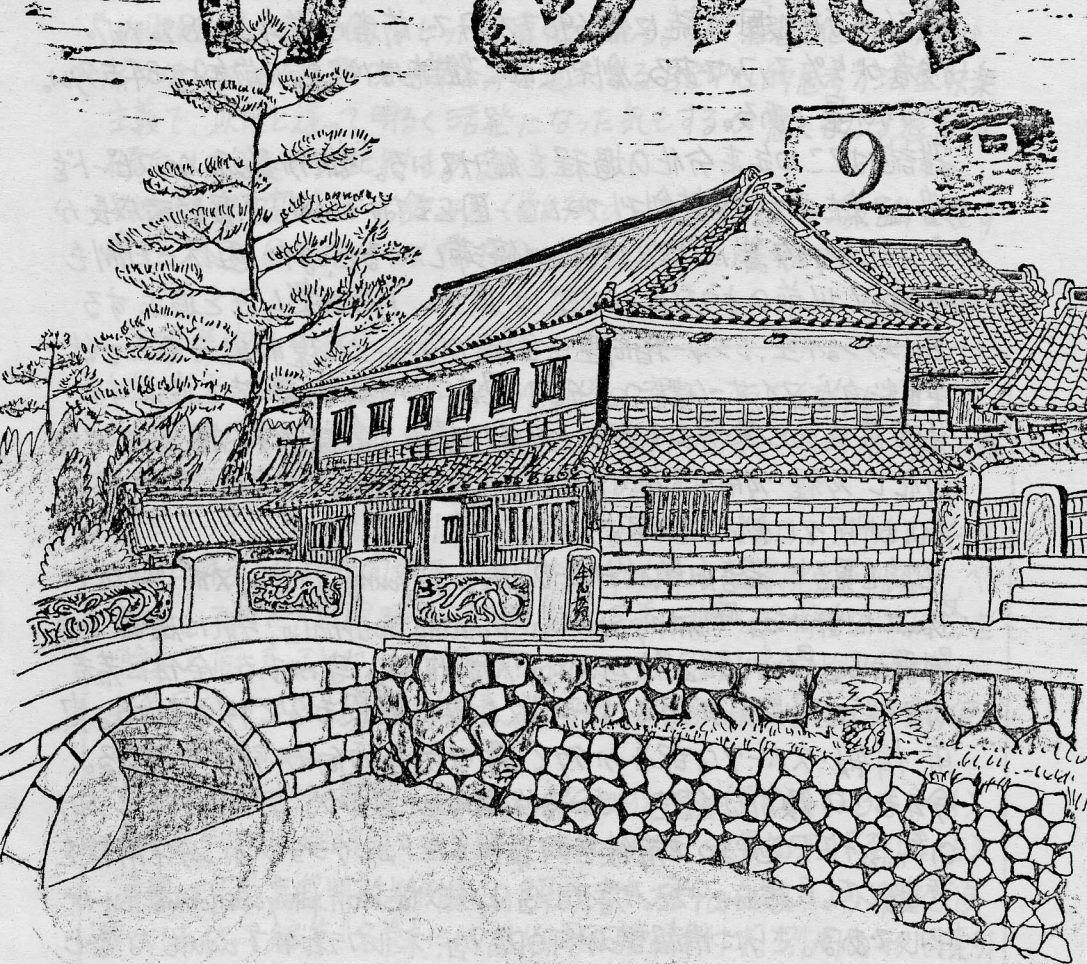


かきぞく



(平日 8:50~18:30)
(土曜日 8:50~16:30)

学習院大学図書館 運用課

氾濫する雑誌の中で

最近どんな書店に行ってもまづ目に付くのは色鮮やかな雑誌の山である。そこは多くの客で活気に満ちているが、奥の単行本のコーナーは人も疎らで寂しいくらいである。

去年は雑誌の年といわれ『出版年鑑』'80年版の雑誌目録には、3160点もの雑誌が収録されている。推定発行部数は月刊誌15億3616万冊、週刊誌12億6967万冊で、前者が前年より8%アップ、後者が5%アップである。創刊された雑誌は194点で前年より84点多い。かなりの量である。

雑誌はここ10年来分化の過程を続けている。それが最近そのスピードを増して来た事が雑誌創刊ブームの一因ともなっている。高度経済成長からオイルショック等により経済が停滞してくると、また週休二日制も手伝って以前のようなモーレツ型は減少し、自分の楽しみを追求する自己エンジョイ型、レジャー指向型の生活パターンが現われてきた。仕事中心からマイホーム型へ、そして現在では個人の趣味を追求する生活様式へと変容してきた。それに連れて雑誌に対するニーズも細分化し多種、多様なものへと変化し、当然雑誌もそういった性格のものか次々と創刊されるようになった。

昨年を見ると、若者向けの『Hot-Dog Press』、『young JUMP』、スポーツもので『Beautiful Sports』、『Monthly Sports』、『Training Journal』、それに硬派では『世界から』、『インパクト』、『クライシス』、『人間雑誌』等がある。全体に若者向け(特に男性)が多くページ数も薄く値段も安く押えている。実用・情報・スポーツの記事が多く趣味的な傾向が強くなっている。今年もこの傾向は続き、特に女性向けが目立つ。まづハイティーン向けの『miss HERO』、20才前後を対象にした『コレクション』、25才前後を意識した『25ans ヴァンサンカン』どれも fashion、play、information が中心である。さらに情報誌の『TODAY』、オルグラビアで adult な感じの『COSMOPOLITAN』などがある。一般向けにはスポーツグラフィック誌の『Number 1』、新感覚で写真を楽しむ『写楽』、これは最近では珍しく発売当日で売り切れた。さらに中年を対象にした生活文化情報誌『BOX』、日本の国土・歴史を graphical に構成した『climat くらま』

などが創刊されている。これらも実用性、趣味的な情報誌といった色彩が強い。

こういった雑誌が読まれる(?)代わりに反面総合誌の伸びが悪いらしい。近頃は学生も総合誌をあまり読まないのではないかと『朝日ジャーナル』や『文芸春秋』を読むよりは『ピア』でも眺めて『チャンピオン』を小脇に街へ出た方がずっと楽しいのかもしれない。

“Walk Man”の爆発的なヒットに象徴されるように若者文化(といえるかどうか)は自分の趣味や楽しみを追求する自己中心的思考方法型快楽主義で、以前と違って明るく活発になった気もするが悪く言えば退廃の傾向にあるという批判もある。

たとえば喫茶店や飲み屋(学生街の)で学生同士の激論を交す姿が近頃目に付かなくなったのはちょっと寂しい気がする。

(中村)

参考室より新着図書を紹介

最近入った図書の中から判例関係の図書二点を紹介します。

- 大審院民事判決録 縮刷版全10巻 第1~27輯、明治28~大正10年 新日本出版社 昭和41年刊 (R.326.8-3)

既に入っている「大審院刑事判決録」と対をなすもので、明治28年から大正10年までの27年分を扱っており、大正11年以降は「大審院民事判例集」へと続く。これで大審院時代の判例集は、民事、刑事とも明治8~27年分を除いて揃ったことになる。各輯の初めに総目録、事件目録(第1輯は件名目録)、いろは索引、法文表、月日録、人名音字目録を付し検索の便がはかられている。

- 最高裁判所判例解説 民事編 昭和29年度 法曹会刊 (R.326.8-4)

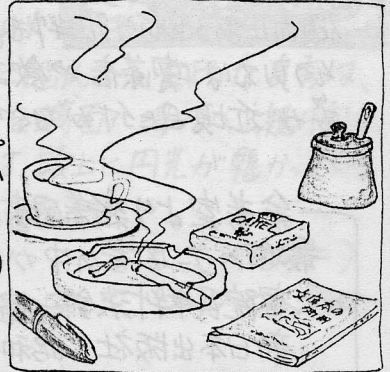
- 最高裁判所判例解説 刑事編 昭和29年度 法曹会刊 (R.326.8-5)

本書は、「最高裁判所判例集」の解説書で、法令の分類により条文の順序にしたがって編集。各巻末には裁判年月日索引を付す。別冊の形で索引(昭和29~40年度、41~45年度分)が刊行されている。判例事項索引と裁判年月日索引とからなり、「最高裁判所判例集」への連絡も当然できている。本書は、以後年1回の頻度で刊行の予定、継続して購入していきます。

(参考係 久保田)

独りで喫茶店に入り、本を読むことが習慣となつて久しい。仕事帰りの一時間、近頃は地袋の“モン・シェリ”に座る。本を持っていないと淋しいので、まず本屋に行つて文庫本を買う。文庫本は喫茶店で読むようにできていると思えるほど具合がよいが、読み終わった後はいかにも軽々しく、つい何処かに突込んでしまうので、必要があつてまた見たい時も、まず見当らないことが多い。装本も立派で高価な本を、コーヒーを飲んだりタバコを吸ったりしながら読むというのは、司書という職業から何となく後ろめたい気がするが、自分の文庫本ならどうと言う事もない気易さがある。

ところで近頃タバコが吸いにくなつた。ほどほどには勿論だが、何事によらず小さな迷惑も許し合えない社会を私は考えることができない。魚を焼く煙りにどなり込んでくる近所づきあい！ ちょっと飛躍するが、大きな声を出した人が勝ちという世間というのは、何だか人間の社会ではない様な気がする。あるいはその逆かな？



横道にそれたが、本の世界に悪書というのはあんがい少ない。文庫本などは名著ばかりだと言われている。漫画文庫も名著ばかりだ。だが、悪書は沢山あるのだ。ポル雑誌など悪書の代表のように言われ、三ない運動——買わない、見ない、などと言うあれ——のポストまで現われたが、あれは馬鹿で眼をもてあました人のやったことで、ポルなどというものは、元々無害で云々するまでもないが、それなりの存在理由もある。

悪書は良書の装いで現われる。科学的根拠とか、深い思索を基礎にしている風を装いながら、本当の趣を意図的に隠してしまう奴がある。それと泥棒市みたいな本。この二大悪書に気付くには訓練が必要だといふところが悪書たる所以で、眼力を養っておかないとこいつにやられる。タバコの害など比較にならない。文庫本の収録範囲もずいぶん拡大されたから、文庫本だからと言つても御用心、御用心！

(佐野)

★文献複写サービスについて

複写対象物は図書館及び研究室備付の資料に限ります。ノート類は受け付けません。2階カウンターに申し込み書がありますので必要事項を記入の上、資料と共に提出して下さい。また、著作権に関する一切の責任は申し込み者が負うこととなります。受け付け時間によって引き渡し時間が異なりますのであらかじめ時間を確かめてから申し込んで下さい。

受付	引渡
8:50 ~ 11:00	11:30 以降
11:00 ~ 1:30	2:00 "
1:30 ~ 4:00	4:30 "
4:00 以降	翌日 10:00 以降

※ 試験期は大変混みますので余裕をもって申し込んで下さい。(野)

読書三昧Ⅱ

——『地獄変』芥川龍之介——

孤高の芸術家の魂はただひたすら究極の美を追い求め、炎と燃え盛る奈落の底からその翼を拵げ天空へ向って飛翔する。

天才画家良秀の地獄絵は、その魂が業火の責苦に喘ぎ、身悶えするとき最も崇高且つ荘厳な美を表現する。

美への執念又は怨念ともいえるものが良秀を駆りたてる。鎖に縛られ体中一面皮膚の色が赤み走っている弟子のまわりを良秀の絵筆が丹念に舐め回す。また、もう一人の、女のように色の白い弟子が異形な鳥に虐まれ、逃げ惑う有様を冷然と眺め、おもむろに筆を執る。五趣生死の因を描くためには、住来の死骸の前へ悠然と腰を下ろし、半ば腐れかかった顔や手足を、髪のも一すじも違えずに写しとった。

月のない真暗な晩、地獄変の屏風を完成させるため、良秀は洛外の山荘の荒れ果てた庭に跪いている。眼前には、松明に照らし出され、金物の黄金を星のようにちらちら光らせている一台の檳榔毛の牛車が据えられている。中にはあでやかな女が一人、上臈の装いをさせられて乗せてある。

良秀の祈望通りに牛車に火がかけられる。火は見る見るうちに車蓋を包

み込み、濛濛と白煙が渦を巻き、火の粉は雨のように舞い上がる。良秀は思わず、知らず足を踏み出し、食い入るように眺めやる。その時、夜風が一下して、金粉を撒いたような焰の中から自分の娘の姿があらわれる。「煙に呑んで仰向けた顔の白さ、焰を掃ってふり落した髪長さ、それからまた見る間に火と変わって行く、桜の唐衣の美しさ、——なんという惨たらしい景色」。ついに牛車は金梨子地のような火の粉を空中に撒き散らし、星座を衝いて燃え沸る一本の火柱と化した。その火柱を前にして、前ほどまで地獄の責苦に悩んでいたような良秀は、今はさながら恍惚とした法悦の輝きを満面に浮かべ、凝り固まったように佇んでいる。その良秀の姿には、頭上に円光が懸かっているかのごとく、怪しげな荘嚴さが漂っていた……。



(河西雄二)

～お知らせ～

○夏休みの開館について

7月21日(月)から9月23日(火)まで下記の通り開館します。

平日、AM 8:50 ~ PM 4:30

土曜、休館 (但し9月6・13・20日は正午まで開館)

※また、7月21日～8月31日までは、南架図書室と3階南覧室は閉室します。

○夏休みの長期館外貸出について

取扱期間; 7月7日(月)～9月22日(月)

この期間中に借り出すと、返却期限は

9月29日(月)～10月7日(火)までの間になります。

※但し、貸出日によって異なります。

○2階の展示棚には「明治期の体育教育」と題して当時の体操の教科書や体操法の図書が展示されている。中でも『西洋中外国遊戯法』にはベースボールの説明などがあっておもしろい。ほとんどが図入りなので見るだけでも楽しいと思う。7～8月の2ヶ月間展示。

○前ページの芥川龍之介『地獄変』

(081.2-33C-313 (岩波文庫)
S.910.82-17-38 (日本近代文学大系 38巻)
S.910.82-19-56 (日本現代文学全集 56巻))

に載っています。興味ある方はどうぞ。

○暑くなると下駄ばきで図書館に来る人がいるが、他の閲覧者に迷惑を及ぼすので、ぜったいに禁止します。

あとかき

うっとおしい梅雨の季節だ。それでも今年はいまのところ雨量は例年の50%ぐらいでカラ梅雨といったところ。沖縄ではもう梅雨が明けて真夏の太陽が顔を見せているようだ。

昨年から前期の試験が7月になったので、中旬過ぎまで学生が多く図書館も混雑している。冷房も3階を残してほとんどの部屋に入っている。しかし体には自然のままの方が良いと思うから、冷房の嫌いな人は3階へ。“Hot”な気分で学習できる！青い空の入道雲からキラリとひびく太陽、その輝きにすべてが陶醉してしまう。今年の夏、何に賭けますか。

製作・著作

学習院大学図書館 運用課

かるね編集委員

目白1-5-1. Tel.986-0221

Ext.378

発行. 7月3日. 1980

*表紙の絵は倉敷旧大原家。